

エルザ32 防災フェスタ 2009 実施レポート

2009年10月26日

埼玉県川口市元郷2丁目15-2
エルザタワー32 自治会防災部
エルザタワー32 自治会
エルザタワー32 管理組合

川口市災害対策室、川口市消防本部の全面的バックアップにより 竣工8年目にして過去最大規模の総合防火防災演習が実現！

防災体制強化の契機

2009年10月25日(日曜日)午前10時、静かな日曜の朝に出火を知らせる警報が響き渡り、389世帯の住民に緊張が走った...埼玉県川口市に7年前竣工したタワーマンション「エルザタワー32(以下エルザ32)」は、2001年まで日本一の高層マンションであった55階建「エルザタワー55」のすぐ隣にそびえ立つ、32階建の高層マンションである。この二つの高層マンションは、ここ数年マンション建設ラッシュが続く川口市内でもランドマーク的存在である。一方でとかく疎遠になりがちな都市部の大型共同住宅において、いかに

防災体制強化の^{かなめ}要としての催事

管理組合理事会・自治会防災部で継続して議論されたことは、単なる備蓄品の充実だけではなくそれらをいかに効率的かつ効果的に活用できるかといった「運用面」である。運用面の充実には、訓練や講習の受講による知識経験の向上が必要であることはもとより、まずは「住民同士が普段から顔見知りになり、相互扶助体制を確立すること」が最重要課題であることに注目した。これは、阪神淡路大震災を含めた近年の被災体験を調査した結果、住民相互の助け合いが一番の救命手段であったことが明確であったため。そこで、防火防災訓練に「より多くの住民に参加してもらう」ことを中心とした企画が始

に防災意識を向上させるかが課題であった。

先達の活動により、5年前には既に自治会防災部があらゆる苦難の中設立されたものの、実質的な活動については試行錯誤が繰り返され、その後年一回行われる避難訓練を進化させて2007年度より『エルザ32防災フェスタ』として同マンション年間で最大の防災イベントに成長した。今回は無事第3回目の『エルザ32防災フェスタ』を迎えることとなり、同自治会における過去の地道な防災活動が認められ、川口市災害対策室・同消防本部の全面的バックアップを得て過去最大規模の総合防火防災演習が実施された。

まった。エルザ32の「新生・防災訓練」として、今回は防火防災訓練を二部制として参加者数を向上させる工夫をしたことが功を奏した。

従来の訓練から改め、第一部を川口市消防本部のご支援を頂く防災訓練として独立させ、第二部は楽しみながら防災意識が高められる交流会として運営し、予算面でも明確に分離して運営した。午後の第二部は模擬店や防災グッズがあたるゲームを中心とした交流会としながら、内容は防災知識を高められる内容として主旨を徹底すると同時に住民の参加意識を高めることも実現させた。その結果、文字通り老若男女が一堂に会し、3年前は約250名であった参加者が今回は約400名となり、年々多くの住民が集結した大演習に醸成された。



(第一部) 模擬火災発生～住民避難の様子
400名と参加者が多く長蛇の列となっている



(第一部) 消防署ご指導による起震車『なまず号』訓練の様子

『エルザ32 防災フェスタ 2009 実施内容』 印は、川口市消防本部によるご指導

第1部 (10:00 ~ 12:00)

- ・ 擬似出火報、自衛防災隊による消火・避難誘導訓練
- ・ 正面エントランス対策本部にて、避難人員の確認
- ・ 消火器消火訓練
- ・ 煙中避難体験
- ・ 起震車『なまず号』による地震体験
- ・ 大型ハシゴ車による避難体験
- ・ アルファ米 (川口市提供) による炊き出し演習

第2部 (12:00 ~ 15:30)

- ・ 川口市防災ハザードマップ講習 (川口市災害対策室)
- ・ 模擬店を利用した、備蓄資機材の使用演習と交流
- ・ AED、心肺蘇生法の実演と必要性の講習
- ・ 防災グッズが当たる、大防災ビンゴ大会
- ・ 防災備蓄資機材の展示

アルファ米(備蓄米)の炊き出し配布演習

川口市から提供されたアルファ米に、備蓄資機材で沸かしたお湯を注ぎ、炊き出しの演習を実施した。過去に買い揃えたキャンプ用カセットボンベ式熱源だけでは大量の給湯が困難であることを反省点として、昨年度よりプロパンガス器具による炊き出し演習を行っている。

当日は避難訓練と並行して数名の管理組合新任理事が中心となり手際よく給湯を行い、住民に配給演習を行った。あえて毎年新任役員を炊き出し係に任命することで毎年炊き出し演習実施メンバーが変わるため、炊出し実演経験者が年々増えていき、有事の際に向けた炊出し作業経験者育成と経験者数増大に役立っている。

AED、心肺蘇生法の実演と必要性の講習

2007年にエルザ32自治会で導入したAED(自動体外式除細動器)の必要性や、心肺停止状態が幅広い年齢層で発生し身近な症状であることからAEDと心肺蘇生法の必要性が説かれ、普通救命講習受講者の防災部長によって手製の資料を使い、解説・実演が行われた。

2007年度には当マンション自治会内で消防署ご支援のもと普通救命講習を実施済みだが、2年経過することもあり、再講習を兼ねた普通救命講習会の開催を今期予定している。今後もマンション内催事にて住民が集まる機会には、都度AEDの必要性について啓蒙を継続する。

AED・心肺蘇生法について

②なぜ、AEDの配置が必要か?

世代・既往症を超え、身近に起きる『心肺停止状態：CPA』

- ・ 高齢者
- ・ 心臓疾患
- ・ スポーツ中
- ・ こども(胸骨弱い)
- ・ 中年の卒倒
- ・ 身体圧迫による

日本における病院外 心停止件数 **2~3万件/年**(※1)
→交通事故による死者数(※2)の**3~4倍**

※1 消防庁発表による2006年度の心肺停止発生件数 2006年 10月 消防庁発表 2006年 10月 20日
※2 警察庁発表による2006年度の交通事故による死者数 2006年 10月 警察庁発表 2006年 10月 20日

AED・心肺蘇生法について

①なぜ、救急車到着までの処置が必要か?

バイスタンダーによる救命措置

当日使用した手製の資料

自治会防災部長による解説



各防火防災訓練等の様子



大型ハシゴ車による避難体験

念願のハシゴ車による演習が川口市災害対策室のご支援により、竣工以来初めて実現した。当日は、川口南消防署 横曽根分署から大型ハシゴ車がエルザ32演習会場に来場、搭乗体験参加者は時間制限一杯まで約70名にのぼった。



横曽根分署所属の40m級先端屈折式ハシゴ車



川口市ハザードマップ講習会

川口市災害対策室の上山室長をお迎えし、今年度二度目となるハザードマップ講習会を実施。首都圏での大型地震発生時に地元地域がどのような状況になるかとその心構えについてわかりやすく解説された。小さな子供を持つ主婦層~高齢者まで、熱心な聴講と質疑応答が行われた。